

単元名 ひきざん(2)

配当時間 11 時間

単元の目標 (1) 繰り下がりのある計算の仕方について理解し、(十何)－(1位数)で、繰り下がりのある計算ができる。
 (2) 繰り下がりに着目して、計算の仕方を考えることができる。
 (3) 繰り下がりのある計算に興味をもち、「10といくつ」という数の仕組みを用いるよさに気付き進んで計算しようとする。

標準的な展開

01040210_001

【準備等】数図ブロック、数図ブロック盤、ひき算カード、1～19の数字カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (十何)－(1位数)で繰り下がりのある計算をする。 [p. 110・p. 111] ○柿の問題を式に表す。</p> <p>○13－9の計算の仕方を考える。</p> <p>○単元の学習課題をつかむ。 ★くりさがりのあるひきざんのしかたをかんがえていこう</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童からいろいろな考え方が出るように時間を取る。 ・教科書の挿絵を見て、自分なりの方法で考えさせる。 ・児童の実態に応じ、見本を示しながら数図ブロックの動かし方を助言する。 ・減加法は、10の補数を考えることで既習事項を用いて計算でき、簡単に速いことを、他の方法と比較して話し合わせ、減加法のよさに気付かせる。 <p>【評】10からひいた残りとし、とっておいた数とを合わせる仕方を理解する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
<p>2～3 減数が6以上の繰り下がりのある減法の計算をする。 [p. 112～p. 114]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★ひくかずが6いじょうのひきざんのしかたをかんがえよう。</p> <p>○繰り下がりのある減法の仕方を確認する。</p> <p>○15－6の計算の仕方を声に出して言う。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り下がりのある減法を減加法でまとめて計算をさせる。数図ブロックを用いて視覚的に捉えさせると効果的である。 ・減加法の形式化を図るため、繰り返し声に出しながら説明をさせる。 ・計算の仕方を小さな声に出して計算させたり答え合わせで確認したりして、定着を図る。 <p>【評】減法の計算問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>4 減数が5以下の繰り下がりのある減法の計算をする。 [p. 115] ○本時の学習課題をつかむ。 ★ひくかずが5いかのくりさがりのあるひきざんのしかたをかんがえよう。</p> <p>○減数が4の場合の計算の仕方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・減数が小さい場合、減減法の方が計算しやすい場合があることに気付かせる。 ・混乱しがちな児童には、減加法で計算してもよいことを伝える。 <p>【評】減法の計算問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>
<p>5～6 ひき算カードを使って、計算練習をする。 [p. 116]</p> <p>○ひき算カードを使って、ひき算カードの答えを言う。</p> <p>○ひき算カードの中から、答えが9になるカードを見付ける。</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★ひきざんカードでゲームをしよう。</p> <p>○教科書巻末の「かあどげえむ」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こたえはいくつ ・おおきさくらべ ・かあどとり ・なかまあつめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・数図ブロックを操作して計算の仕方を考えさせる。 ・減数が小さい場合、減減法の方が計算しやすい場合があることに気付かせる。 ・混乱しがちな児童には、減加法で計算してもよいことを伝える。 ・楽しく学習できるように雰囲気作りに心がける。 ・答えが9になるカードの共通点を見付けるよう促すのもよい。 ・4つのゲームがあるので、友達と競争したりゲームを取り入れた練習を組み合わせで行ったりすることで、児童の関心が持続するように工夫する。 <p>【評】ひき算カードを使って減法の計算練習をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
<p>7～8 ひき算カードを使って、計算練習をする。 [p. 117]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★ひきざんカードでくりさがりのあるひきざんのれんしゅうをしよう。</p> <p>○同じ答えのひき算カードを並べて気付いたことを話し合う。</p> <p>○「あ」から「き」に入る式を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・減数が小さい場合、減減法の方が計算しやすい場合があることに気付かせる。 ・混乱しがちな児童には、減加法で計算してもよいことを伝える。 ・楽しく学習できるように雰囲気作りに心がける。 ・答えが9になるカードの共通点を見付けるよう促すのもよい。 ・4つのゲームがあるので、友達と競争したりゲームを取り入れた練習を組み合わせで行ったりすることで、児童の関心が持続するように工夫する。 <p>【評】ひき算カードを使って減法の計算練習をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

<p>○ ひき算カードを縦や横に並べて、計算練習をする。</p> <p>9 加法や減法の計算に習熟する。[p.118]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ たしさんやひきさんをつかってゲームをしよう。 ○ 教科書の「かずあてげえむ」をする。</p> <p>10 加法や減法の問題作りをする。[p.119]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ たしさんやひきさんのかみしばいをしよう。 ○ 教科書の「けいさんのかみしばい」をする。 ○ 「けいさんのかみしばい」を作る。</p> <p>11 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p.120・p.121]</p> <p>○ 「たしかめよう」に取り組む。</p> <p>○ 学習の振り返りを話し合う。</p>	<p>【評】減法の計算問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの学習のまとめとして、ゲームを取り入れて計算の習熟を図る。 ・ 最初は数字を裏返して、その数を当てさせるが、数字だけでなく、＋や－の記号を裏返してもよい。 <p>【評】ゲームを取り入れて計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙芝居の絵を見て、加法と減法の用いられる場面を判断できるようにする。 ・ 絵をかく活動に時間を費やしてしまわないように、お話作りだけに活動を焦点化する。 ・ $8+6$，$12-7$に合うお話作りをする。 ・ はじめ、なか、おわりの3枚の紙芝居をかかせる。絵をかくことが苦手な児童もいるので好きな動物の絵を印刷し、好きな数ずつ貼らせて作ってもよい。 <p>【評】加法と減法の紙芝居作りを通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・ 自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り下がりのあるひき算について分かったことや楽しかったことなどを話し合わせる。
--	---

【 備 考 】

本単元では、繰り下がりのある減法の計算を学習する。具体的な操作から徐々に念頭での操作に移行し、さらに計算に習熟するように単元を構想する。繰り上がりのある加法に比べて考え方が難しいので、個別指導に重点をおき、どの児童も確実に計算できるように配慮する。

展開例は11時間完了を基本としているが、単元末に補充課題や発展課題に取り組ませ、12時間完了としてもよい。